

特別連載

Vol.25

金田正一投手(1988年野球殿堂入り)着用の読売ジャイアンツユニホーム

1960年代のセ・リーグを代表する大きなトピックとして、65年に巨人のV9(9年連続日本一)が始まったこと、69年に金田正一投手(国鉄～巨人)が日本プロ野球最多となる通算400勝を達成したことがあげられます。

金田投手は2リーグ制がスタートした1950年の途中に愛知の享栄商高から国鉄スワローズに入団します。1年目に8勝、2年目には22勝をあげ、そこから14年連続してシーズン20勝以上というとても活潑で、球史を代表する投手となります。63年に当時の通算最多勝利記録だった別所毅彦投手の310勝を抜き、65年に巨人に移籍、69年に日本プロ野球では前人未達の通算400勝を達成、同年限りで引退しました。

川上哲治巨人軍元監督の著書「遺言」(文藝春秋刊)によると、「巨人はよく練習したが金田の練習量はそれ以上で、ONが感心したくらいだから他の選手はついていけなかった。あれ

ほどの大投手がこれほどの練習をする。裏を返していえば、あれだけの練習をするからこそ大投手になれたのだということだから、なによりもナインへの無言の教訓になった。このプラスは大きかった。くしくもこれがV9の始まりの年だ。」と、金田投手の入団が与えたV9への影響を紹介しています。

写真は金田正一投手着用の読売ジャイアンツのユニホームで、当館の「プロ野球の歴史コーナー」の金田投手の展示ケースで展示しています。かつて同コーナーには、ロッテ監督時代のユニホームを展示していましたが、8年ほど前のある日、金田さんが来館した際にその展示をご覧になり、「ワシは監督としてではなく、投手として殿堂入りしたのだから、今度現役時代のユニホームを持ってくるよ」と仰り、後日お持ちいただいたのがこのユニホームです。V9時代の厚手のウール地のユニホームで、現在も同コーナーで展示しています。

